

3. 平成28年度の事業計画

1)事業の概要

(1) 中長期ビジョン（将来像）の策定

本学園は「建学の精神」（学識と技術の錬磨、報恩の精神、不撓不屈の精神）に則り、社会からの信頼を勝ち取り、将来を見据えた中長期ビジョン（目標・戦略）を策定して持続的な学園の発展を目指すとともに、その前提となる収入面の安定を図るため、各校の募集定員の確保と管理部門のローコストオペレーション（管理経費の見直し）を推進してまいります。

また、各年度計画につきましてはマネジメントサイクル（PDCA）に留意しながら、着実に実行できる体制を構築してまいります。

(2) 事業計画・予算管理の徹底

本学園は多様な学校を擁することから、学園全体としての収支のバランスを確保しにくい面がありましたが、各校の独立採算を基本として、事業計画や予算の進捗管理の精度を高めることで全体の収支バランスを維持できる体制の確立を目指します。

また、施設営繕についても全体像を見きわめた計画的な取り組みを行うことを基本とするほか、個々の事業についてはあらかじめその効果を十分に検討し、全体最適を目指した予算執行に努めてまいります。

(3) 地域との連携

本学園は設置各校がそれぞれ地元の皆さまとの良好な関係の中で発展を遂げてまいりましたが、学園として改めて地域の皆さまのご支援に感謝し、地域との共生や地元の発展に貢献できる諸施策に取り組んでいき、地域に愛される学校を目指してまいります。

その具体化にあたっては、本学園の教育の基本でもあるホスピタリティ精神の一環としてのボランティア活動をはじめ、地域に密着した教育機関として地元の皆様のニーズにお応えできる施策の積極的な提案を通じ、地域とともに発展する姿勢を明確にしてまいります。

(4) 寄付金募集への取り組み

本学園では、よりよい教育サービスの提供をめざして広く寄付金へのご協力をお願いしていくことといたしました。

世界に通用するニューグローバル人材の育成には卒業生や篤志家の皆様の経済的なご支援が不可欠ですので、継続的にご支援いただける体制整備を進めてまいります。

(5) 戦略的広報の展開

各校単位での活動が中心の広報活動を再点検し、学園全体の統一した広報戦略に基づく広報組織体制の再構築を推進してまいります。

① 学園全体の統一した広報戦略策定

従来の情報交換を主体とした学園広報委員会のあり方を改め、双方向性を持ち、創造性に富んだ機能を持たせることを通じて各校広報担当部署の連携を深めてまいります。その結果として効果的な広報活動を推進し、本学園に対する社会からの認知度の向上を図るとともに、広報経費の見直しも検討してまいります。

② 教育活動の広報推進

本学園では各校とも様々な体験教育を重視しております。日本を代表するトップエリート教育をめざす小・中・高では世界で活躍する著名なゲストをお招きしての講演や多彩な海外研修等を実施しています。また、ホスピタリティあふれるプロフェッショナル人材の育成をめざす大学・専門学校では、社会とのつながりを大切にした外部団体等とのコラボレーション企画を進めております。今後も本学園の多岐にわたる特色ある諸活動を広く社会に自然体でアピールできる広報体制の確立を目指してまいります。

2) 部門別の諸活動計画

(1) 法人本部

① 学園研修体制の確立について

全教職員に対し、学園としてのビジョンや基本方針の共有を図ることを徹底し、リスクマネジメントやコンプライアンスについて意識の統一を図ってまいります。また、適材適所の人員配置により、個々人のスキルアップを図ります。

② 既存教育組織の改善と新教育組織の創造

社会のニーズに応じていくための情報収集に注力し、他校との差別化やその他の教育組織の見直しについて各校と協働して企画・立案し、その具現化を推進します。

③ 内部管理体制の見直しについて

監査法人、会計士、内部監査室と連携し、管理・点検機能を強化し、不祥事故防止に努めます。また、システム導入や研修等により各校の経理担当者のレベルアップを図ります。

広報活動については、各校の収容定員確保が重点課題のため、情報収集、進捗管理を徹底し、他校との競争に打ち勝つ態勢作りに努めていきます。

(2) 西武文理大学

平成 11 年 4 月に文理情報短期大学を改組転換して開学したサービス経営学部は、18 年目に入り、平成 21 年 4 月に開設した看護学部は同じく 8 年目を迎えます。

サービス経営学部の卒業生の就職率は 99% に達しておりますが、全国の大学の経営系就職率では毎年上位にランクされていることから、本学の実学教育の成果は社会から高く評価されていると認識しております。

こうした実情を踏まえ、本年も学生の多様な学修ニーズに的確に対応できる教育システムを追求していく一方、就職指導面でも企業側の採用環境の変化をキャッチし、迅速に対応していくことができるよう、きめの細かな就職指導体制を強化してまいります。

大学を取り巻く教育環境の急激かつ多様な変化に対応して、大学では来年度特に力を入れて取り組んでいく活動の計画を以下に記します。

① サービス経営学部グローバル化計画事業

ア) 文理グローバル・ホスピタリティ・センターの設立(BGHC)

昨年4月より、グローバル・コミュニケーション・センター（GCC）を設立し、正課教育で英語によるコミュニケーションの力の育成を図ってきました。参加する学生の意欲は高く、コンシェルジュ大会では外国人ゲストのアテンドとして参加しました。

そこで、従来のイギリス・アメリカ直輸入型の英語教育や文法重視の日本型英語教育ではなく、最新の教育学の手法を取り入れてホスピタリティマインドと国際コミュニケーション能力を持ったサービス人材の育成を目指します。そのためにGCCを展開させて、上位組織としてBGHCを設立します。BGHCは正課教育内のホスピタリティとコミュニケーションの体系化と正課外教育のGCCの教育を計画実施するものです。

1) 留学先の確保

GCCの成功を受けて、学生の留学意欲が高くなってまいりましたが、現在、ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジしか留学先がない状況です。学生のニーズに対応して、3年計画で6校程度提携大学を増やしたいと思います。北米2校、オセアニア1校、ヨーロッパ1校、アジア2校を目標とします。ホスピタリティ・ツーリズムの学びやサービスマネジメントの学びがある大学を対象とします。

② 事務システムの導入

2016年度は基本システムのみを導入し、2017年度以降は、学生証のIC化、証明書発行機の設置、出席管理の為にカードリーダーの導入等を計画していきたいと思います。

さらに将来的にはホームページの改定に伴ったWeb履修登録等も検討し、学生サービスの向上に寄与し、学生の満足度を向上させることで、学生募集への良い循環を構築したいと思います。

③ 大学ホームページの改訂

本学では、スマートフォンに対応したサイトは学生募集コンテンツにおいて既に制作されているものの、その他のコンテンツについては制作されておりません。高校生や在学生をはじめ、保護者にいたってもスマートフォンの所持は当たり前となっている現在、今後はすべてのコンテンツが使用しているデバイスに応じ、自動的に変換するシステムとすることが肝要です。

また、教学関係については、今後WEB履修登録が当たり前となることが予測され、その際に対応できるものとしておく必要があります。

④ 2号館の空調更新工事

本設備工事は、航空機騒音に係る防衛省補助事業であり、防衛省の担当者と更新の協議を続けてまいりましたが、諸般の事情により工事の取り組みが延び延びとなっていました。

防衛省予算にも左右されますが、平成28年度には設計費補助が降り、年度末には一次工事着工の可能性も見えてきましたので、今年度事業計画に記載するものです。

(3) 西武学園文理中学・高等学校

《中学校》

① グローバル人材育成

1) 海外研修

3年生のイタリア研修では、世界遺産訪問や様々な歴史的美術品鑑賞のほか、1万人を超える熱心な信者が集まるローマ教皇謁見式に参加するなど、身近に異文化に触れ、視野を広める体験を重視してまいりました。この体験を通じて文化の違いを肌身で感じる一方、自国文化を見直すきっかけとなるなど、国際人をめざす文理生としての教養を高める効果につながっております。少子化の進展等に伴う生徒数の減少は避けられませんが、これからも文理らしい特色のある教育活動に取り組んでまいります。

イ) 語学教育の充実

希望者を対象とした語学研修として、1日のほとんどが英語漬けの生活となる3日間のプログラムで構成される「イングリッシュサマースクール」を千葉県施設で毎年実施しておりますが、平成27年度は、文理高校生を中心に校内で実施された“ハーバード英語プログラム”に3年生の希望者が参加いたしました。

このプログラムについては平成28年度から対象者を中学2年生にも拡大し、より実践的な英語力の強化を図っていく予定です。

ロ) 施設改善

中学棟は築後22年を経過しているため、外壁材のレンガ剥落を防止するための点検・補修に取り組んでおります。平成28年度は中庭に面した西側外壁の点検・補修を実施し、生徒の安全に万全を期してまいります。

《高等学校》

① 先端科学講座

世界トップクラスの先生を身近に感じ、文理生の高き志を実現させるきっかけとなることを目指して、ノーベル賞受賞者をお招きしての講演会をシリーズで実施しております。平成27年度は第7弾として、ノーベル物理学賞を受賞された名古屋大学の小林誠先生をお招きしての講演会を開催し、難しいテーマでもわかり易くお話しされる小林先生の講演会に参加した生徒にとっては、それぞれが目指す将来に向けて、大きく夢を膨らませる体験となりました。今後も生徒の“高き志”を実現させるための様々な取り組みを実施してまいります。

② グローバル教育

ア) ハーバード英語プログラム

平成27年7月、校内でハーバード英語プログラムを実施いたしました。ハーバード大学の学生・卒業生8名他の講師陣で“英語でのコミュニケーションスキル”と、考える力を訓練する“クリティカルシンキングスキル”の向上をめざすもので、最初は戸惑いを隠せなかった生徒も、3日間のプログラムを通じて堂々と英語でのプレゼンテーションに臨むことができるようになるなど、大きな成果につながっていることから、平成28年度も7月末の開催を予定しております。

なお、語学研修としては他に中学校同様の「イングリッシュサマースクール」を平成28年度も千葉県の施設で実施してまいります。

イ) 海外進学説明会

世界で活躍できる人材育成の一環として、海外への進学を目指す文理高生のために年3回の海

外進学説明会を開催いたしました。平成 27 年 6 月には本校第一期卒業生でスタンフォード大学教授の山田知生先生にご講演いただき、米国での入試システムなど先輩らしい配慮あふれる内容に、参加者は目を輝かせて聞き入りました。これからも世界に羽ばたく人材育成を推進するための試みを続けてまいります。

カ) 海外研修先の見直し

全員参加のオーストラリア研修では、英語科は約 3 週間にわたるホームステイと現地校での授業を通じて実践的な語学研修を、普通科・理数科はファームステイを通じて国際社会で活躍できる人材育成のための異文化体験を重視してまいりました。

このうち、理数科については大学進学後の学術研究に耐えられる英語力を身に着けるきっかけづくりとして、海外研修先を米国に変更するほか、グローバル教育の一環として希望者を対象にカリフォルニア大学バークレー校での夏季英語短期留学を実施するなど、多彩な取り組みを研究してまいります。

③ 川越イノベーションセンター

下校途中や休日・夜間にも利用可能な自習施設として川越駅前に設置していた「川越イノベーションセンター」を平成 27 年 4 月から川越駅に隣接する商業ビル内に移転いたしました。生徒の利便性が格段に高まる一方、生徒が利用しない時間帯に地の利を生かして保護者の「受験よろず相談室」などにも利用するなど、大学進学実績向上にむけてさらに新たな活用方法を探ってまいります。

④ 施設管理

建築後 35 年を過ぎる高校棟校舎では、耐震補強工事は完了したものの、トイレ等の設備や備品の劣化が目立ってきております。特にトイレについては衛生上の問題もあり、在校生保護者から改善を求める声が強くなっているほか、生徒募集広報の観点からも優先的に取り組んでいく必要があります。併せて経費削減のため応急処置を繰り返してきた雨漏り修繕や校内塗装、運動施設などの校内設備改善も先延ばしには限度がありますので、計画的な着手に取り組んでまいります。

(4) 西武学園文理小学校

平成 16 年 4 月に開設した西武学園文理小学校は開設 12 年を過ぎ、小・中・高一貫校としての特色を活かし、様々な体験学習を通じて児童の興味と知識の幅を広げる新トップエリート教育に引き続き取り組んでまいります。

語学教育につきましては低学年から英語を身近に感じる文理イマージョン授業に取り組んでおりますが、その集大成としての 5 年生の英国短期留学では世界中の豊かなご家庭の子弟と寮生活を共にし、英国王室の代々のご子弟や大統領・ノーベル賞受賞者などを多く輩出するイートンカレッジを訪問し、世界的な名門大学であるオックスフォード大学やケンブリッジ大学も訪問いたしました。6 年生の米国研修では国連本部の見学・現地小学校の子供たちとの触れあい、日本の伝統文化の紹介とアクティビティ、現地の大学生・大学院生によるハーバード大学やMITのキャンパスツアーやレクチャー、交流を通じて異文化コミュニケーション力に自信をつけるなど、大きな成長が認められます。

この体験が卒業研究等を通じてのプレゼンテーション力強化にも繋がっていることから、引き続き英語教育・海外研修の充実を推進してまいります。

また、豊かな自然を身近に感じることができるキャンパス環境を活かしての農業体験（田植え・稲刈り・奉納祭）や自然観察で豊かな感性を磨く取り組みのほか、文理高校卒業の東大生の協力で実施

している東大キャンパスツアーなど、国内のトップ大学で将来の可能性を広げるための東京大学研修については各学年で実施しており、知識・自然・芸術など多方面にわたる体験学習が定着してきておりますので、今年度も新しい試みに取り組んで参ります。

(5) 調理師専門学校・医学技術専門学校

専門学校の目的は入学生全員が国家資格を取得し、社会で活躍できるプロフェッショナルを輩出していくことにあります。

学園共通の教育の基本である“ホスピタリティスピリット”をベースに、食と医療を結び付けたユニークな教育を進める本学園専門学校各校の教育成果は調理師、栄養士、臨床検査技師、義肢装具士、言語聴覚士の資格をめざした学生の卒業後の就職率の高さを通じて社会から高く評価されており、就職先も各々の科で、専門職としての就職希望者全員、100%の就職実績を継続しております。国立・私立4大への3年次編入実績も多数あります。

また、入学生は高校新卒ばかりではなく、大学卒業生や社会人など一般の方が応募されるケースも多くなっておりませんが、幅広い年齢層からの入学生がいるため、学生の社会への関心は強く、地域ボランティアや公開料理教室をはじめ、地産地消への提案では地元の行政機関からも高く評価していただいております。今年度も地域に密着した社会活動を活発化することで円滑な学生募集を進めるとともに、本来の目的である国家試験合格100%を目指した学習支援体制の充実を図ってまいります。

以上